

## 平成 28 年度第 2 回愛知県環境審議会専門調査員協議会 議事概要

### 1 日時

平成 29 年 2 月 23 日（木） 午後 2 時から午後 4 時 30 分まで

### 2 場所

愛知県自治センター 6 階 603 会議室

### 3 出席者

#### (1) 専門調査員

神戸専門調査員、福岡専門調査員、瀧崎専門調査員、成田専門調査員、村松専門調査員、岡田専門調査員、服部(伸)専門調査員、緒方専門調査員、榊原専門調査員、水野専門調査員、中尾専門調査員、服部(俊)専門調査員、原瀬専門調査員、森専門調査員、山岡専門調査員、吉田専門調査員  
(以上 16 名)

#### (2) 事務局

愛知県環境部自然環境課：伊藤主幹、石原課長補佐、小川主査、青柳主任、  
加藤技師  
東三河総局環境保全課：加藤主事  
新城設楽振興事務所環境保全課：中村主任  
尾張県民事務所環境保全課：中村主査  
海部県民センター環境保全課：川口主任  
知多県民センター環境保全課：山田主任  
西三河県民事務所環境保全課：矢代主任  
豊田加茂環境保全課：家田主査  
(以上 12 名)

### 4 議題

#### (1) 平成 28 年度愛知県自然環境保全地域等の追跡調査の結果について

##### ア 自然環境保全地域

平成 28 年度の愛知県自然環境保全地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。なお、欠席した専門調査員の報告については、事務局が代読し、指摘に対する回答を行った。

#### 《主な意見等》

##### ① 小牧大山（小牧市）

(福岡専門調査員) 自然が非常に良い状況で保たれている。自然についての問題は何も無い。

調査の際、地元の保全活動が行われており、地元の方が寺社を大切に保全していることがわかった。

看板等もよく設置されている。一箇所、解説板に誤表記があったので修正をお願いします。

(水野専門調査員) 非常に良い状況で自然が保たれている。以前と比較して変化は見られなかったもので、このまま保存されたい。

(森専門調査員) 都市周辺に残された貴重な自然景観である。

この地域はトイレなどよく整備されているが、過去の追跡調査において整備しすぎではないかとの指摘も有り、都市周辺の丘陵地や天然林に人為を与えるにあたりどの程度整備するかは難しいと感じた。

兒の森の看板については、退色がみられたため、更新できると良い。

(協議会事務局) この地域の整備をどの程度行うかについては、保全すべき自然環境が維持できるように、関係機関に機会を捉えて働きかけを行っていく。

解説板の誤表記については、報告後、すぐに修正を行った。

退色している兒の森の看板については、管理者に更新の検討を依頼した。

## ② 伊熊神社社叢（豊田市）

(成田専門調査員) (事務局より代読) 竹林の侵入は自然林にとって脅威であるため、計画的な観察・調査を行い、素早い対処が必要である。

イノシシの土の掘り起こしは植生だけでなく、自然環境全体に大きな被害をもたらしかねない。

また、入口を示す看板については分かりにくいいため、改善すると良い。

(緒方専門調査員) 入口に設置してある看板について、植物が覆うなどして見にくかった。

参道の落ち葉・枝（リター）が地元の方により片付けられていたが、クモがリターの下に生息しているので、落ち葉、枝の清掃には気を付けてほしい。

環境には特段変化がなかった。

(服部専門調査員) 前回と比較して地質的には変化は無かった。

山頂付近の伊奈川花崗岩はサバ化していて、大雨が降ると崩れやすくなっている。

林道途中の駐車場に新しい看板があった。入口にも立てていただけるとよい。

荒天後に訪れたが、林道途中に倒木が有り、道が塞がれていたため、荒天後の維持管理について期待する。

地質的には目新しい物はなかった。

(協議会事務局) モウソウチクについては、これまでも県の維持管理事業において伐採を実施しており、今後も計画的に実施していく予定である。

イノシシによる被害の防止については、地元自治体と連携しイノシシの捕獲を進めていく。

見にくい状態の入口看板については、管理者に改善を促していく。

また、大雨等の荒天時は、情報収集・現地確認等に努める。

## ③ 白鳥山（設楽町）

(瀧崎専門調査員) 多くの植物で食べられた跡があり、1番の問題は鹿の食害であると考える。

ツツジ科植物については鹿が食べないのか、多くの種類が確認された。

ナンゴクナライシダ等が見られたため、温暖化と乾燥化の影響があるかも知れない。

前回、村松専門調査員指摘のコウヤマキ群落周辺の雑木の伐採については実施され、コウヤマキが元気に生育していることが確認された。

ハナヒリノキも保全がなされており、本数は減っていたが、実がつく状況であった。

(服部専門調査員) 地元観光協会設置の看板があり、参考になった。

多くの鳥のさえずりが聞こえた。

過去の追跡調査で見られたムササビは見つからなかった。

(山岡専門調査員) 大きな変化はなかったが、小さな変化が見られた。

10月の台風の後に訪れたため、倒木があった。

山頂の解説板の支柱が朽ちていて倒れそうだった。

また、前回も指摘した鉱物マニアによる鉱物の盗掘が見られたので、保全地域の区域内外に関わらず禁止する表示があると良い。

(協議会事務局) 鹿による食害の防止については、地元自治体と連携し、鹿の計画的な捕獲を進めていく。

鉱物の採取禁止については、簡易的な看板により注意喚起を行っており、来年度以降で、正式な看板の設置を検討する。

また、山頂の解説板については、来年度の更新を検討している。

#### ④ 砦山（豊根村）

(村松専門調査員) パンフレットに記載のあるヤシヤビシヤクを探したが、かなり高い場所に生育しているためか確認できなかった。

以前の調査報告にブナがあるとの記載があったが、イヌブナしか確認されず、ブナは無いと思われた。

小さなアクシバが数十株見られたが、ほとんどが鹿に食べられており、今後無くなるのが心配される。生育範囲は狭いため、保護のためにネット等を張る必要があると考えられる。

自然林が覆い安定しているが、日光を好む下草は、被陰により見られなくなっているため、坂宇場川両岸5m程度の樹木を伐採できるとよい。

(岡田専門調査員) 前回と比較して特段大きな変化はない。

坂宇場川沿いにはスズダケが多く生えており、他の植物が生えるのは難しいと思われる。日余沢川沿いは保全地域周辺における植林により被陰している。

国土地理院の地図の等高線に誤りがあり、実際は解説板から北に向かって下り傾斜になっているが、地図では上り傾斜となっていた。

(原瀬専門調査員) 珪質片麻岩の崩れは見当たらなかった。

看板の汚れ等が気になった。

また、林道に親切な看板があってもよいと思われる。

地形・地質について特に大きな変化はなかった。

(協議会事務局) アクシバについては、ネットの設置を検討する。

河川兩岸の伐採については、保全すべき自然環境の特質である広葉樹があるため、現状維持を考えている。

#### イ 自然環境保全地域候補地

平成 28 年度の愛知県自然環境保全地域候補地の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。なお、欠席した専門調査員の報告については、事務局が代読し、指摘に対する回答を行った。

#### 《主な意見等》

##### ○ 蒲池海岸（常滑市）

（中西専門調査員）（事務局代読）砂の飛散防止ネットは堤防上だけにすべきである。

外来種のアツバキミガヨラン、オオフトバムグラ、コマツヨイグサは広い範囲に分布しており増加傾向にあるため、注視が必要。

（榊原専門調査員）外来種が増えていると感じられたため、今後注意することが必要。

（吉田専門調査員）地学的には特に問題は無い。

（協議会事務局）砂の飛散防止ネットの指摘については、常滑市、管理者である知多建設事務所へ情報提供を行いました。

外来種のアツバキミガヨランについては、常滑市、知多建設事務所へ情報提供を行いました。今後、常滑市と対応を検討します。

オオフトバムグラ、コマツヨイグサについては、今後生育の動向に注意してまいります。

（瀧崎専門調査員）アツバキミガヨランは駆除のための取組が必要である。以前、駆除活動としてブルドーザで砂浜を掻いたが、結果増えてしまった。グリホサート系除草剤を直接筆で塗ることが一番効果的であるので対応をお願いする。

（水野専門調査員）セアカゴケグモの駆除については、薬剤を使用すると他の貴重な昆虫に影響があるため、使用しないこと。

（協議会事務局） 指摘事項について管理者に伝える。

#### ウ 優れた自然地域

平成 28 年度の優れた自然地域の追跡調査結果について、各専門調査員から追跡調査報告書に基づき報告があった。

#### 《主な意見等》

##### ○ 泉福寺（田原市）

（神戸専門調査員）渥美半島屈指の常緑広葉樹林である。また、渥美半島で最も古いお寺である。

しかし、お寺には檀家もなく、現地で人に出会うこともない。地元の方などに貴重な自然について理解していただき、自然を保存していくためにも、制札板の設置を検討してもらいたい。過去、財賀寺においては制札板の設置に効果がみられた。

竹林の分布域が過去調査と比較して拡大しており、対策が必要である。

また、ナラ枯れも発生しており防止対策が必要である。

(木村専門調査員) (事務局代読) 山麓は乾燥しており陸産貝類は生息していなかったものの、山頂には多くの陸産貝類が確認された。

山塊全体は常緑広葉樹がよく保存されているが、参道横のモウソウチクは過去調査と比較して分布が拡大しており、伐採を検討する必要がある。

また麓の看板の汚れ、不法投棄が確認された。

(中尾専門調査員) 露頭の状況は悪くなっているものの、地形、地質的に変化は認められなかった。

PCB含有の可能性があるトランス等の電気設備が放置されていたので、早急な対応が必要である。

(協議会事務局) 制札板の設置については、自然公園の看板の更新に併せて、優れた自然について記載する方向で検討している。

モウソウチク、ナラ枯れ、不法投棄、看板の汚れについては、管理者に対応を依頼する。

放置されたトランス等の電気設備については、県の廃棄物担当部署により現地確認し、関係者に必要な対応について説明した。今後、現在の管理者に必要な措置を説明、指導を行う。

### (3) 研究発表

- ・中尾専門調査員(地形・地質部門)から「豊川河床に露出する海成粘土層」について、研究発表がなされた。

### (4) その他

- ・事務局から、最近の本県の自然環境行政の情報として、第12次鳥獣保護管理事業計画書及び鳥インフルエンザの県内の状況について報告があった。

(意見無し)

- ・次回の平成29年度第1回専門調査員協議会については、植物部門の専門調査員が研究発表を行うこととなった。
- ・愛知県環境審議会専門調査員協議会の会議録については、愛知県環境審議会運営規程第7条第1項の規定に基づき、吉田代表専門調査員(地形・地質部門)及び成田専門調査員(植物部門)が署名者に選出された。